

平成27年度 光市立 三輪小学校 学校評価総括表

評価基準 4ー達成 3ーおおむね達成 2ーもう少し 1ーできなかった

学校教育目標 「楽しく学び 仲よく集う」						自己評価		
領域	年度当初の課題	重点目標	課題解決に向けての取組 (具体的方策・評価項目)	評価項目・評価指標	評価基準	評価点	目標の達成状況に関する意見 (取組の適切さの検証結果)	改善方策
学力の向上	学力向上を目指す授業改善	各教科における言語活動の充実	・考え表現する場の設定 ・学力向上推進教員の活用	児童や教師、保護者等の授業評価による肯定感80%以上	4 肯定感90%以上	4	学校評価アンケートにおいて、児童・保護者・教職員とも肯定感90%以上を示し、学力状況確認問題において、県平均を上回る成績を示した。各教科の授業において、話形などを用いた表現活動を取り入れている。	今後も言語活動に重点をおき、表現力を高めていく。
					3 肯定感80%以上			
					2 肯定感60%以上			
					1 肯定感60%未満			
学習内容の定着に向けた学習習慣の確立	家庭学習の更なる充実	・学習時間の確保 ・自主学習の励行	児童や教師、保護者等の授業評価による肯定感80%以上	4 肯定感90%以上	3	学校評価アンケートにおいて、児童・保護者・教職員とも高い肯定感を示している。	宿題忘れ0%及び自主学習100%に挑戦させる。(継続)	
				3 肯定感80%以上				
				2 肯定感60%以上				
				1 肯定感60%未満				
心の教育の重視	豊かな心の育成のために、一人ひとりに寄りそった積極的な生徒指導の推進	自己有用感を育てる生徒指導の推進	・「あいさつ」自分から元氣よく無言で一所懸命 ・「ファミリー活動」の充実	児童や教師の評価による肯定感80%以上	4 肯定感90%以上	4	学校評価アンケートにおいて、児童・教師とも肯定感90%以上である。特にあいさつにおいては、声の大きさや地域の方々のご意見からも、進んで実践していることがわかる。	児童のやる気を持続させるために、自主的活動を活用する。一人ひとりのよさを認めながら育てていく。
					3 肯定感80%以上			
					2 肯定感60%以上			
					1 肯定感60%未満			
体力・安全の充実	たくましい心身を鍛えるための体育的活動の推進	体力向上プログラムの改善	・外遊びの奨励 ・体力テスト結果の分析に基づく改善	児童の評価による肯定感80%以上	4 肯定感90%以上	4	児童による肯定感90%以上であり、外遊びに一生懸命取り組んでいる姿をよく見かけた。	チャレンジタイムなどを活用し、持続できるよう支援していく。(継続)
					3 肯定感80%以上			
					2 肯定感60%以上			
					1 肯定感60%未満			
生活習慣の確立	落ち着いた学校生活を送るため、規則正しい生活習慣の確立	生活習慣作りの推進	・健康づくりカードの活用 ・テレビやゲーム視聴時間のきまり等の徹底	児童や保護者の評価による肯定感80%以上	4 肯定感90%以上	3	学校評価アンケートにおいて、児童による肯定感80%である。	家庭のルール作り及びその達成度向上等、今後も推進する。(継続)
					3 肯定感80%以上			
					2 肯定感60%以上			
					1 肯定感60%未満			
連携・協働(CS)	地域を巻き込んでいけるCSを目指し、円滑な運営・更なる充実	学校運営協議会の充実・発展	・組織充実のための研修 ・ボランティアの更なる活用 ・世界スカウトジャンボリーに対し、地域として支援 ・CSの取組を地域の方々へ認知拡大	協議会委員による肯定感80%以上(認知拡大に重点を置く)	4 肯定感90%以上	4	世界スカウトジャンボリーにおいて、多数の地域の方々にボランティアとして参加していただいた。長寿会の方々の参加数が増加した。年度途中に行った地域アンケートにおいて、認知度が50%程度だった。	挑戦する子どもの育成に向けて、当事者意識の醸成を進める。地域のニーズを把握し、活動に取り入れる。広報活動をさらに充実させる。
					3 肯定感80%以上			
					2 肯定感60%以上			
					1 肯定感60%未満			
キャリア教育の充実	滑らかな接続のため、小・中・小・小・幼・保・小連携の更なる強化	キャリア教育の充実	・3つの視点をふまえた小・中間、小・小間、幼・保・小間交流の継続	児童や教師の評価による肯定感80%以上	4 肯定感90%以上	4	大和地域の特色である連携教育が見事に生かされ、児童の能力を伸ばし、中1ギャップ解消のためにも大いに効果的であった。	幼・保・小・中学校との連携を強化し、さらなる充実を図る。連絡会議を位置づける。
					3 肯定感80%以上			
					2 肯定感60%以上			
					1 肯定感60%未満			
業務改善	学校の組織力の向上	教職員の協働体制の強化	・教育環境の整備 ・職務能力向上を目指した研修の充実 ・事務処理電子化の推進	教職員面談時の聞き取りによる肯定感80%以上	4 肯定感90%以上	4	教職員それぞれが持ち味を活かし、自分の職務に誇りを持って取り組んでいた。	職員がやりがいを感じるよう、CSの内容を充実させながら取組を強化する。(継続)
					3 肯定感80%以上			
					2 肯定感60%以上			
					1 肯定感60%未満			

学校関係者評価		
評価点	評価(取組状況・達成状況に関する意見)	次年度に向けた学校運営の改善方法
4	肯定感が高いということで、評価も高かった。 表現活動に力を入れるのであれば、型にはめず個性を生かすような努力をしてもらいたい。感想文など決まり文句を全員が書いている様子が見え、残念に思うときがある。	基礎基本を重視しながら、個性を生かす表現力を高めるよう、努力したい。 親の意識がまだ読書に向いていないので、親に対する啓発も視野に入れていきたい。
3	昨年度の反省にも出ていたが、学習時間の目安については、浸透が図られていない。学年ごとの目標や中学校の実態を踏まえた意識付けを図る必要がある。	小学校で自主勉強の習慣が身につくよう、指導の工夫を図る。 家庭学習について、保護者の意識を高めるよう、家庭に周知し、徹底を図る。
4	あいさつの態度が、改善されている。清掃活動についても、高学年の進んで取り組む姿がよく見られるようになった。今後子どもたちが自主的に取り組んでいくことを望む。	児童会活動における取組を強化する。 地域との交流を盛んにし、場を増やすなどして、地域の方々から子どもたちの姿を覚えていただけるよう努力したい。
4	子どもたちの肯定感や取組への姿勢について大変よく理解できる。陸上記録会等で成果が表れていることは評価できる。	持続可能な体力向上プログラムの実現について、意図的・計画的な取組を望む。 学校生活の中で、体力の向上につながる行動を全校で仕組みたい。
3	朝食を摂って登校する児童が増加している。 データを継続的に蓄積し、データを活用して今後の活動に生かしてほしい。	家庭のルール作り・生活のリズム作り及びその達成度向上等、今後も改善を加えながら継続して推進する。
4	ジャンボリーの受け入れ事業成功を糧として、今後もボランティア活動の活用を中心に、地域の方々の参加に努力してほしい。また、広報活動も続けて、理解の輪を広げてほしい。	地域のニーズを把握するとともに、地域のためになる行動を少しずつ開始していきたい。
4	子どもたちが喜ぶ姿を目にすることができた。公民館活動にも巻き込み、充実した活動ができています。	小中連携を中心として、幼・保との連携も、研修会などを通してさらに充実し、大和地域全体で15年の育ちに寄与していきたい。
4	教職員は、各分掌においてCSを意識しながら計画し、取組を行っていた。 教職員の努力が子どもたちの姿を通してよく理解できる。今後も不断の努力を続けてほしい。	職員全員がCS活動を意識し、地域に対してさらなる活動ができるよう、引き続き努力したい。
総合評価	学校関係者評価委員の総括意見	校長の総括意見
4	安心して通える学校を目指して教職員はよく努力している。大和地域の連携をさらに充実させ、挑戦する子どもの育成に取り組んでほしい。	高い評価をいただき、身の引き締まる思いである。学校経営をさらに進歩させるために、課題を洗い直し、高い目標を掲げて邁進していきたい。